

離れているイメージのある、「工芸」と「工業」を「デザイン」によって
掛け合わせて、新しいものづくりやブランディングを行う——
そんな動きが広がっています。
京都の長い歴史の中で磨かれてきた伝統工芸の技。その技術や哲学は、
現代の製造業やデザインにも新たな視点を与えてくれます。
伝統工芸と近代工業が協業する新しいものづくりの事例をご紹介します。

異分野連携の大切さ 工芸×工業×デザイン

京都の工芸には海外からも熱視線？

京都で活躍するプロダクトデザイナー 石井聖己氏が提唱する「工芸工業」



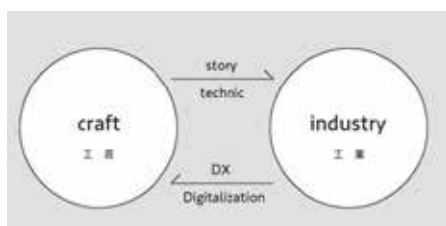
漆のペンダントライト「TW」とTSUYAMA FURNITURE



西陣織の糸を使用した照明「ITO」

デザイナーの石井聖己氏（SEIKI DESIGN STUDIO代表）が、京都にスタジオを構えてもうすぐ10年。伝統工芸や京都の企業とのプロジェクトが増え、デザイナーとして京都の産業に関わる中で、別々の業界だと認識されている「工芸」と「工業」の分野を繋げていきたい、と感じているようで...

石井氏：工業側の人々は、工芸から「ストーリー」「技術」「継承の理由」を学びたいと考えています。実際、海外のトップデザイナーから、「お金はいくらかかってもいいから日本の工芸を見たい」と私にアテンド依頼が来たこともありました。逆に、工芸側の人々からは「DX」や「量産性」を取り入れていきたいと相談があり、工芸と工業はお互いに学び合える可能性を感じています。プロダクトデザインによって、工芸が拡張していく、工芸工業のような概念ができればと考えています。



石井氏の講演資料より抜粋



画像提供:SEIKI DESIGN STUDIO /photo : Tomomi Takano

株式会社島津製作所 総合デザインセンター 川合潤氏が考える、 社内を繋ぐデザイナーの役割

2025年に創業150周年を迎えた株式会社島津製作所は、記念事業の一環として、手仕事の伝統工芸の「技」と、機械加工の高精度な工業製品の「業」を掛け合わせた「技と業 Craftech」をコンセプトとした、分析装置や医療機器など4種のモデルを制作しました。これらは、大阪・関西万博を含む18か国57か所で展示され、当初はコンセプトモデルのみ製造予定でしたが急遽販売用モデルの製造に至るなど大きな反響を呼びました。

川合氏：弊社は、グローバル市場における「SHIMADZU」ブランドの差別化という課題を抱えています。一方、創業地である京都も、伝統工芸の需要低迷という課題に直面しています。これらは、性能や品質だけでは簡単に解決できないテーマです。
弊社は仏具製造から始まり、漆や銅板加工などの工芸技術を理化学機器に応用してきた歴史を持ちます。伝統工芸との深い関わりは唯一無二の強み。創業150周年を機に、この歴史を社内外に広く伝えたいと考えました。メーカーのデザイン組織の主業務は製品デザインですが、近年は「繋ぐ」役割も担っています。社内の多様な部署を横断し、伝統工芸と融合させた結果、京くみひもの社員証ストラップ、素材の多様性を表現した社内表彰トロフィー、螺鈿と回折格子のゴルフメーカーなどが生まれました。デザインの本質は、バラバラなものを「繋ぐ」ことです。弊社と伝統工芸のストーリー、京都という場所、ものづくりを支える技術をデザインで結びつけることで、唯一無二のブランド力を高め、新しい需要を創出します。そして、京都への地域貢献を果たしながら、共に成長していきたいと考えています。



細部までこだわったプロジェクトHP (QR) /ロゴ



賑わう大阪・関西万博での展示の様子



今回制作された4種のモデルのうちの1つ「回診用X線撮影装置」



京くみひもの社員証ストラップ

画像提供: 株式会社島津製作所

業種を超えて協業する、これからの伝統工芸の可能性 新工芸研究会 企画担当・吉田治英氏



中央精機株式会社×新工芸研究会
コラボホール「KYO no WA」

中技センが支援している新工芸研究会では、伝統工芸やデザインの企業を中心に、産学公連携による新たな京都工芸の創造を目指しています。最近の研究テーマは「現代のB to Bのお話し」。そこに依頼くださったのが、上記の株式会社島津製作所や、自動車用ホイールを主力製品とする中央精機株式会社でした。

これらの取組では当研究会がプロデューサーとなり会員企業とそのネットワーク工場の技術を横断的に取り入れて制作を進めてきました。その中で見えてきた新たな方向性とは？



新工芸研究会HP

吉田氏：京都の伝統工芸は狭い範囲に他業種が集中しているため、業種を超えて協業しやすいです。自社で当たり前の技術が他社では新鮮なこともあれば、逆にアウトプットは全然違うのに使用している技術は近いこともあります。会社同士や、企業内の部署同士でフラットな関係を築き協業することは、これからの伝統工芸の一つの方向性だと思います。これらの事例から、また新たな異分野連携が生まれることを期待しています。

デザインで悩んだら...

中技センのデザイン情報係までお気軽にお問い合わせください。デザイン担当がお答えします。詳しくはHPへ。
(企画連携課 デザイン情報係 片瀬)

<https://www.kptc.jp/gijutsushien/des/>

中小企業技術センター デザイン



まずはご相談を